工事検査ワンポイントアドバイス
「今年度の検査事例から」

工事検査通信　No.93
発行：　R6年11月28日
出納局　工事検査課



今回は、今年度の検査で見られた各分野の注意点についてです。まずは土木工事について教えて下さい。



はい。土木工事については２点あります。

１点目は、コンクリートの打設計画について施工計画書に記載がないものがありました。打設計画については、１回の打設で完了するような小規模構造物を除き、施工計画書に１回（１日）のコンクリート打設高さを明記しなければなりません。（共通仕様書ⅠP99）

２点目は、コンクリートブロック工の水抜き孔の施工について設計図書に定めがない場合は、2%程度の勾配で設置することとなっているので注意してください。（共通仕様書ⅠP251）

水抜きパイプの勾配が十分確保されているか確認が必要です。



最近、施工件数が増えている橋梁補修工事では何かありますか。



はい。橋梁補修工事における断面修復工（コンクリートの劣化部分を斫りポリマーセメントなどで修復）の出来形管理と品質管理について注意点があります。

出来形管理において、長さ・幅・深さの規格値を±〇〇mmとしている事例がありました。劣化範囲を確実に除去する観点から、設計値以上とするのが一般的です。共通仕様書に規格値等の定めがない場合、監督員と協議のうえで規格値の妥当性について留意してください。

なお、協議していない場合の規格値は、原則として設計値以上となります。

品質管理については、共通仕様書に定めがないものが多いため、監督員と協議し施工計画書に記載してください。温度等の施工条件や圧縮強度等の基準を満足しているか確認しながら施工する必要があります。

（資料(土木)参照）



建築工事で気になった点はありますか。



はい。建築工事では、施工計画書に記載する管理基準において、柱、梁等の断面寸法の許容差を０～２０mmを標準値として設定すべきところ、各部材の位置の許容差と混同し±２０mmとした事例がありました。施工計画書の受理においては、発注者・受注者ともに管理基準の設定について記載内容に間違いがないか確認をしてください。（資料（建築）参照）



次に設備工事で気になった点はありますか？



はい。給排水管の地中配管における注意点です。「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)令和４年版」では、給水管と排水管が平行して埋設される場合、原則として、両配管の水平実間隔を500mm以上とし、かつ、給水管は排水管の上方に埋設するよう施工します。また、両配管が交差する場合も、給水管は排水管の上方に埋設することになっていますので、施工図を十分確認した上で作業してください。
（資料（設備）参照）



最後に農業土木工事についてお願いします。



はい。ＩＣＴ活用工事の中間検査において、発注者と受注者の協議資料に、協議項目の漏れや内容の不備が見られました。農林水産省のガイドライン「監督・検査編」のP3-15に記載された必要項目（１～８）を確認するとともに、詳細についても上記以前のページを参照してください。
　また、今回の事例のように工事実施中の中間検査を積極的に活用してください。（資料（農業土木）参照）



ありがとうございました。
　これから年度末にかけては検査件数が非常に多くなる時期です。監督員の皆さんは、これまでの「工事検査通信」を参考に、適切な工事監理をお願いします。

【登場人物の設定】　〇福島県 出納局 工事検査課



：唐井(ｶﾗｲ)検査員
（土木全般担当）



：梁本(ﾊﾘﾓﾄ)検査員
（建築担当）



：照明(ﾃﾙｱｷ2)検査員
（設備担当）



：渋井(ｼﾌﾞｲ)検査員
（農業土木担当）